

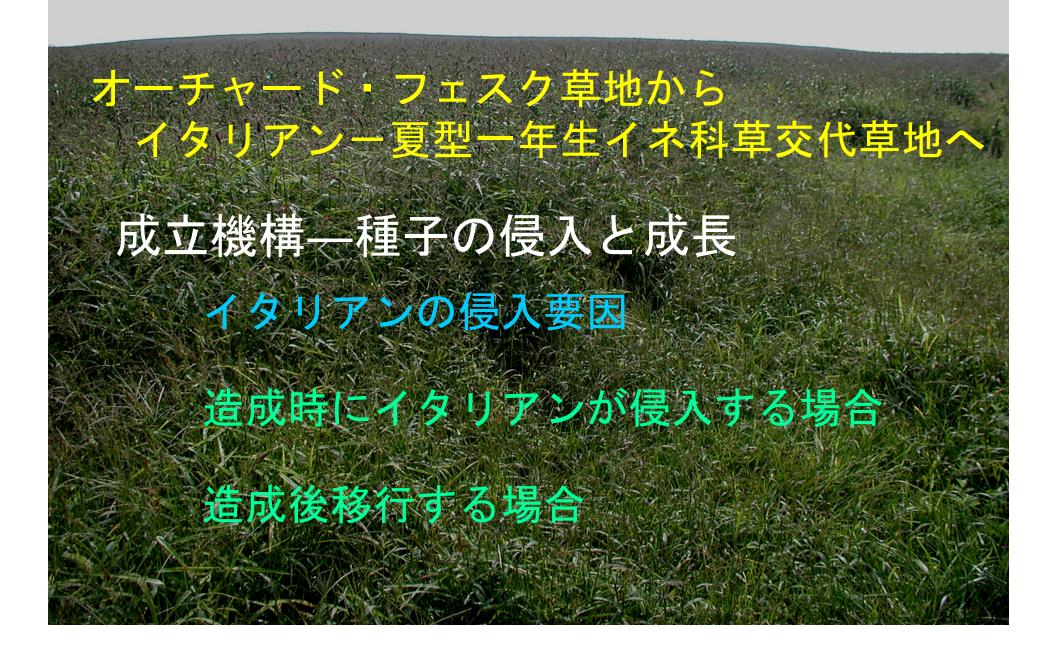
基礎的・理論的研究 イタリアン一夏型一年生イネ科草交代草地の 成立機構と安定要因

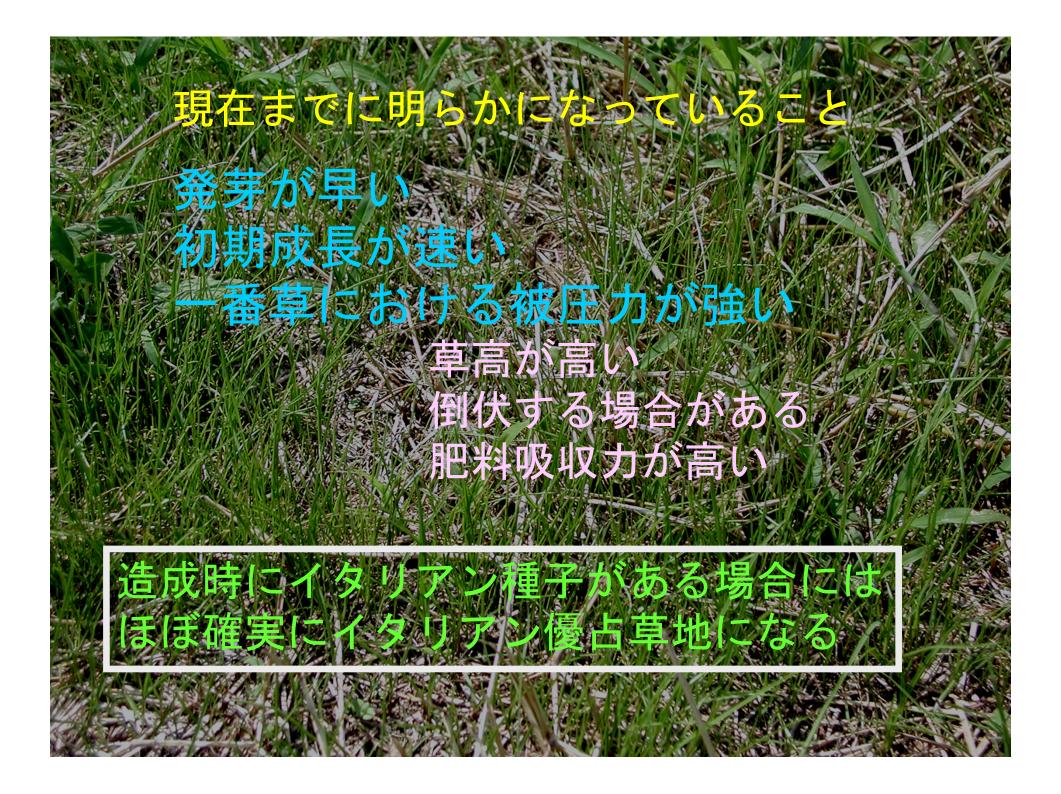
*なぜイタリアンライグラスは多年生牧草地 に侵入し、優占化できるか?

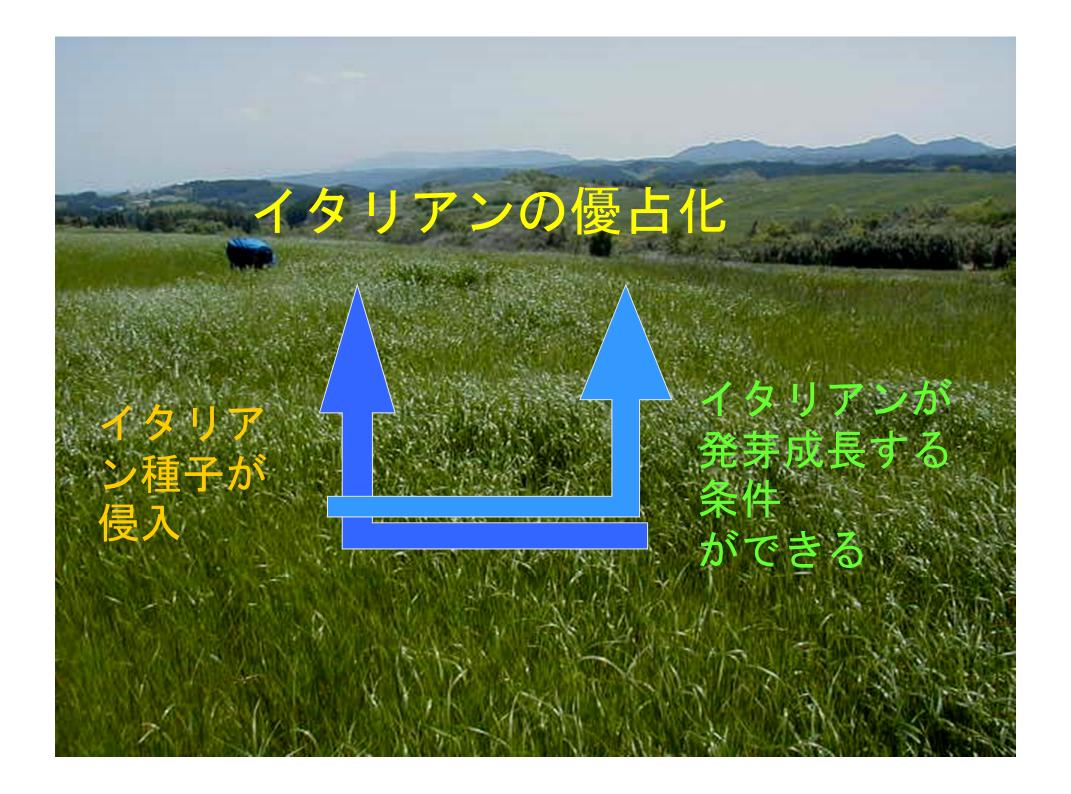
(多年生牧草の競争力はどこにあるか)

*どのような条件で毎年草種交代を繰り返すことができるのか?

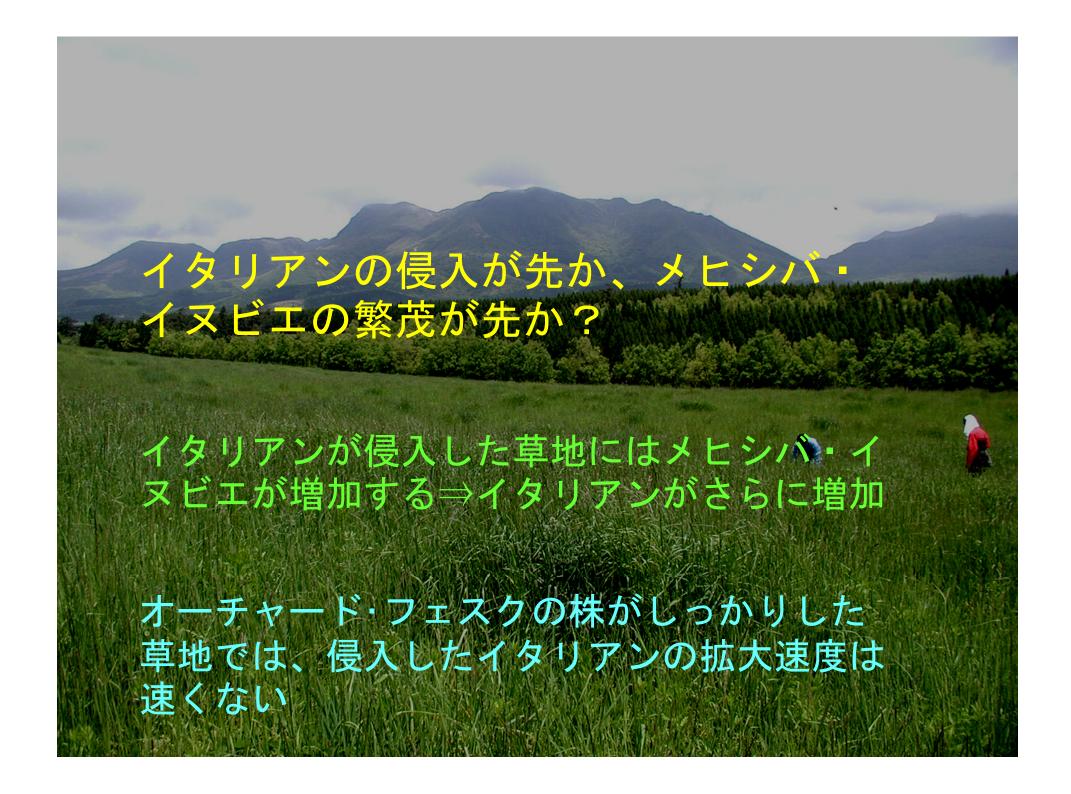
基礎的研究:成立機構と安定要因

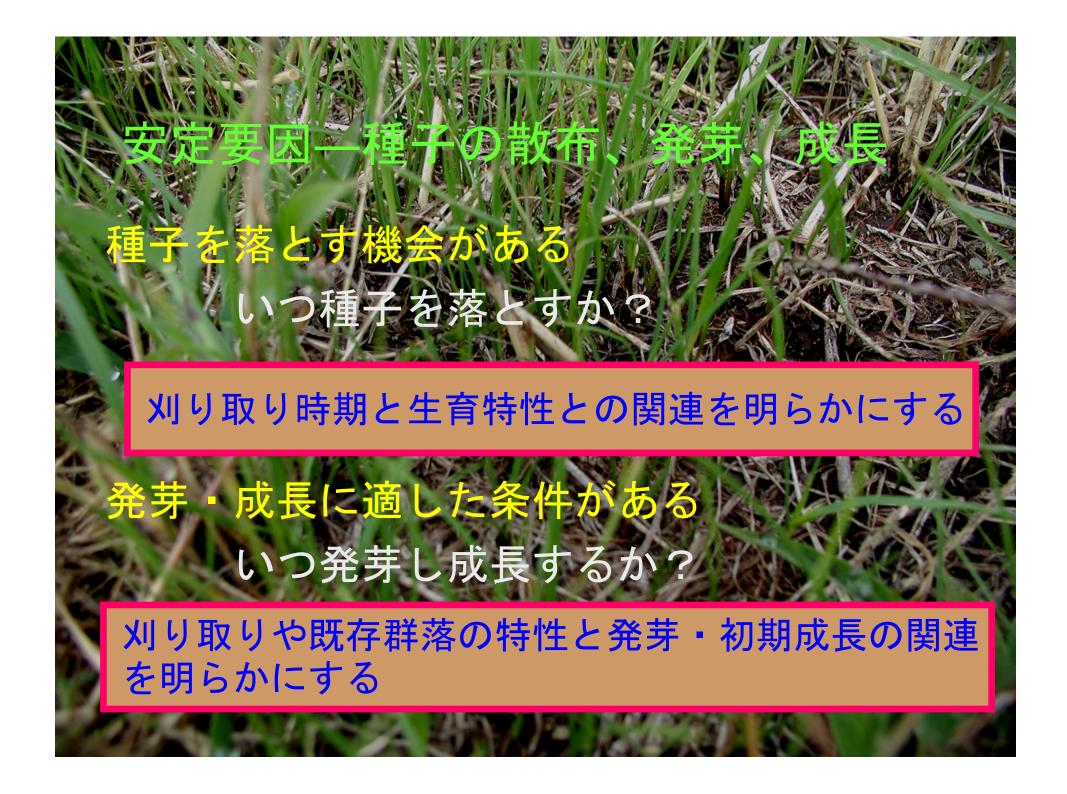












現在までに明らかになっていること

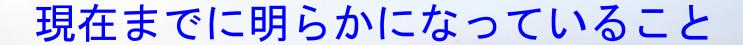
ロイタリアンは2番草の刈取り時(通常 7/15~)には十分な発芽能力を持った種子をつけ、下種する

(7/5前後から発芽能力をもつ種子が形成され 始める)

②下種したイタリアンは、3番草刈取り後 にいっせいに発芽する

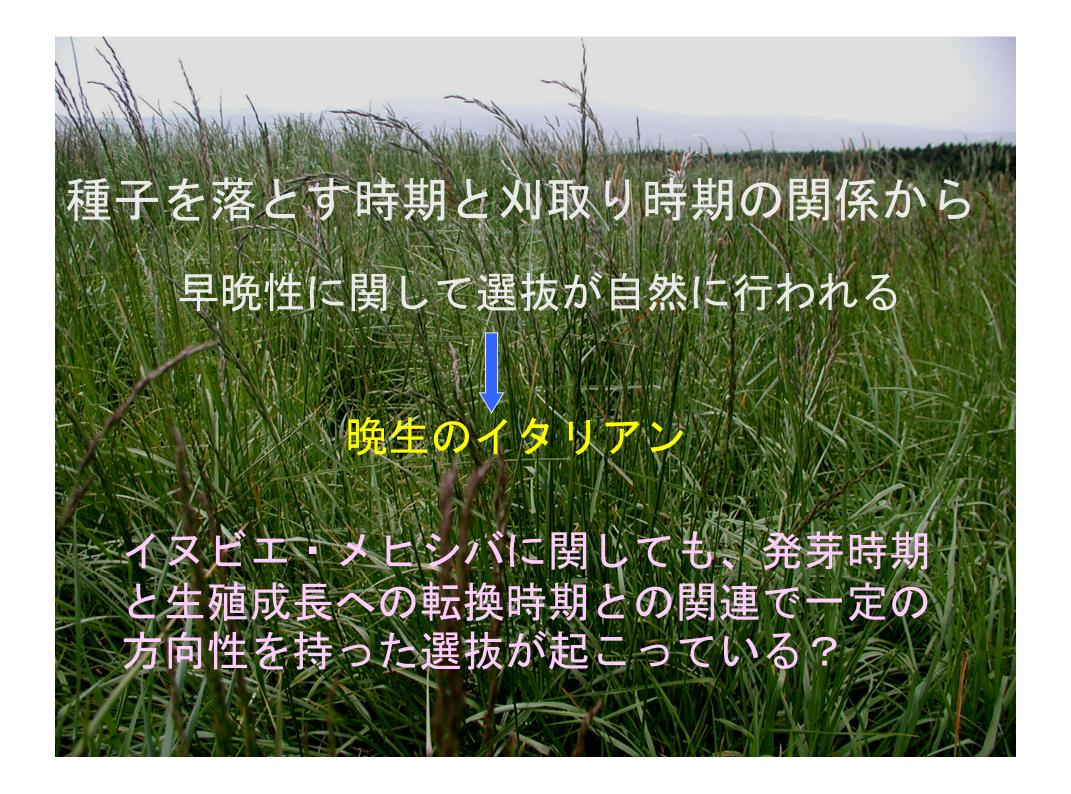
(一部は3番草群落内あるいは刈取り後徐々に 発芽していく

翌年まで休眠する種子の数は少ない)

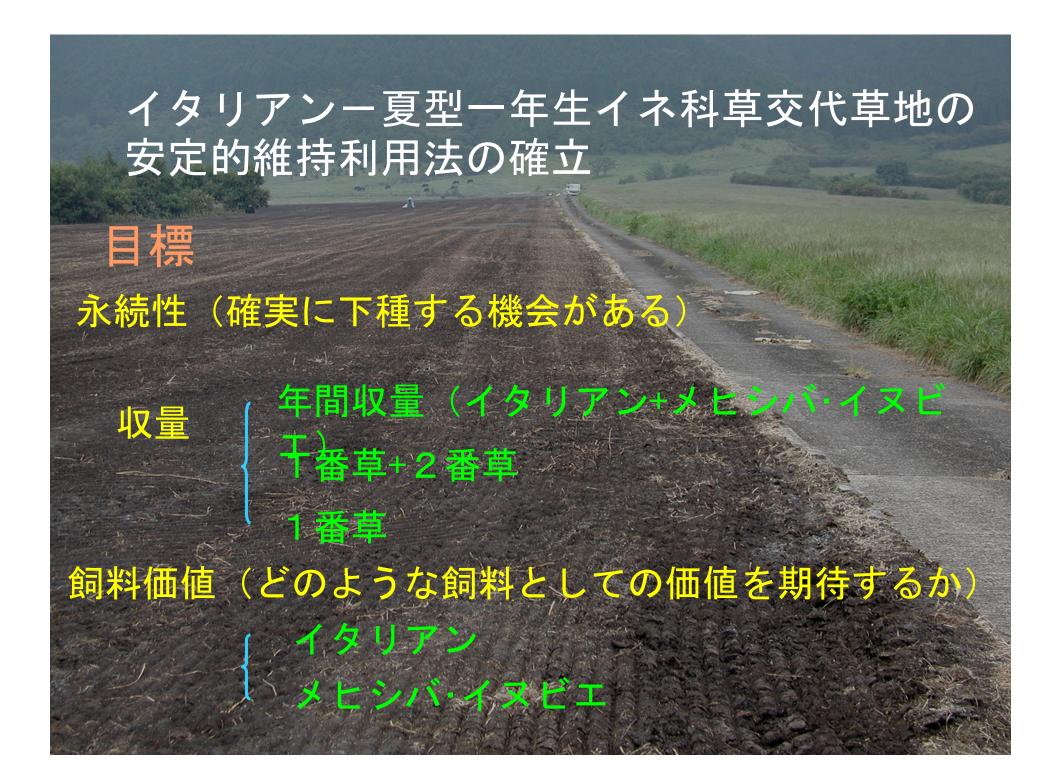


③メヒシバ・イヌビエは2番草群落内で発芽する個体、2番草刈取り後に発芽する個体がある

④メヒシバ・イヌビエは3番草で下種じ、 翌年まで休眠する



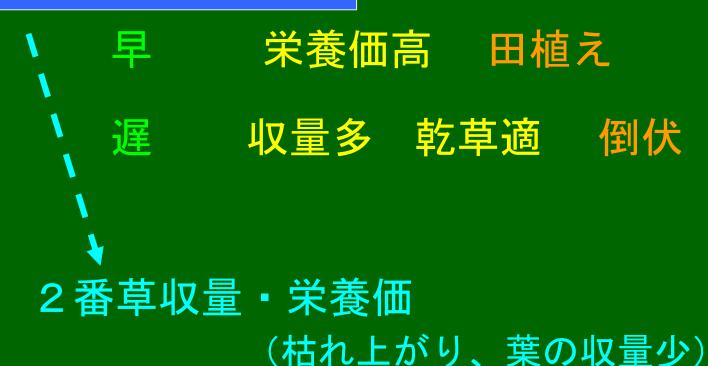








1番草刈取り時期



1番草ではイタリアンの下種はない (6月上旬)

2番草刈取り時期

早 栄養価高 梅雨 種子の確保

遅 収量多 枯れ上がり

種子を落とす

(7/5前後から発芽能力をもつ種子が形成され始める)

2番草刈り取りが遅れると(8月)、メヒシバ・イヌビエは背が低いまま出穂

*1番刈り直後に出穂し、種子を着ける茎があり、2番草成育中に下種ことが観察された

3 番草刈取り時期

早 栄養価高 種子確保

イヌビエの乾草適性

遅 収量多 倒伏 (メヒシバ)

放牧の影響を明らかにする(終牧時期)

イヌビエ種子は9/15頃から成熟する

3番草刈り取りが遅れると(10月中旬)、 翌春のイタリアンの個体数減少

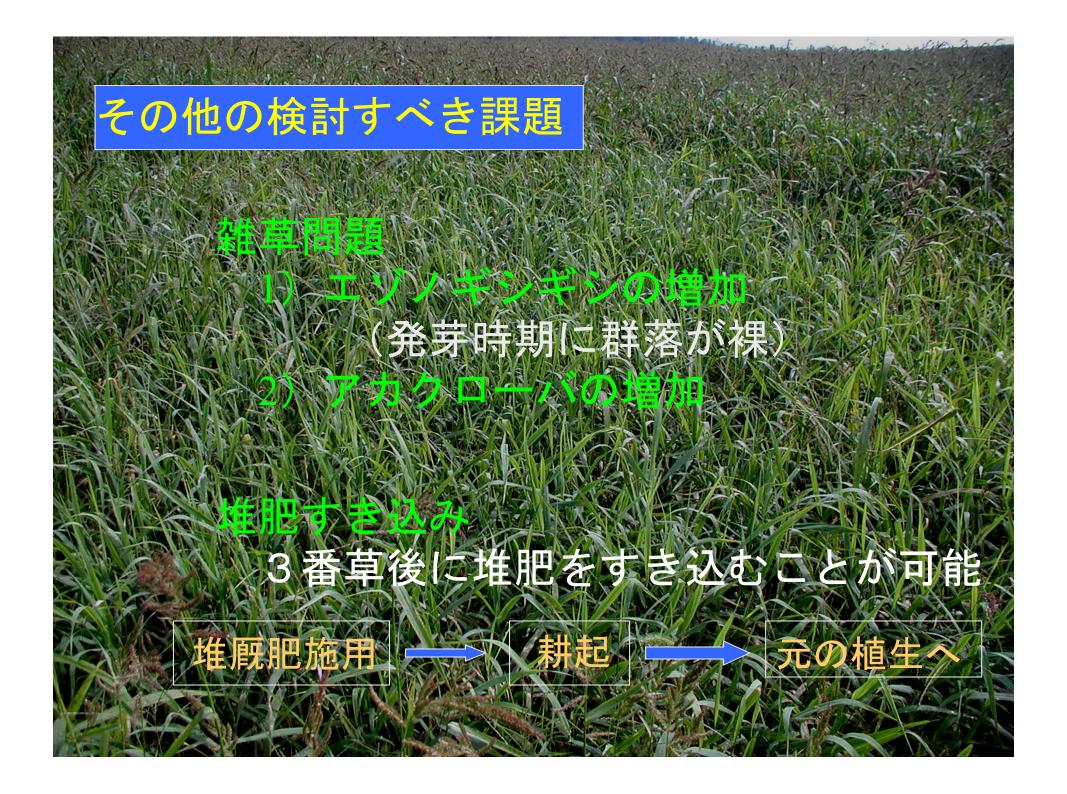
施肥処理(成分、量、時期の再検討)

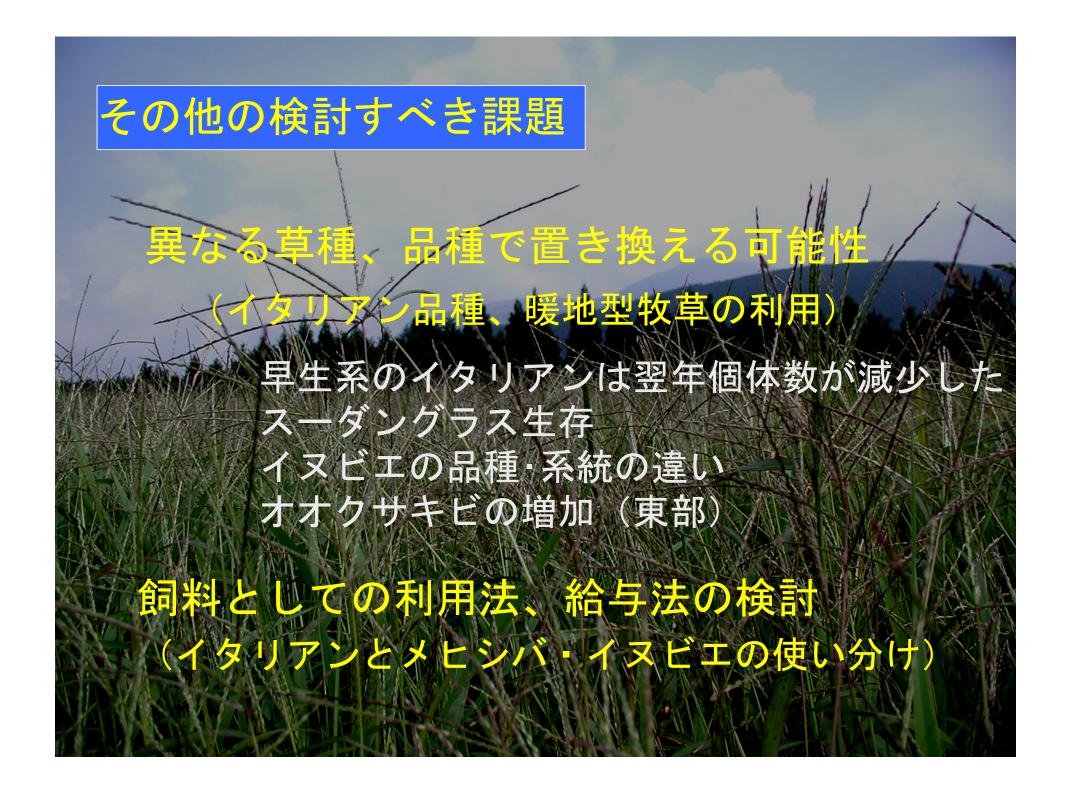
何番草を重点に収穫するか (収量、栄養価、硝酸態窒素)

施肥の重点化(節約)

作業性(特にイタリアン) (倒伏を少なくする)

> 秋施肥 春肥









生長に伴う密度低下

再生不良(夏枯れ

刈り遅れ

刈り取り不能

収穫物放置

ポピテルーのでは、エ (メヒシバ・イヌヒエ)

病虫害

踏上